

瓦礫等一時保管エリアの解除及び変更について

TEPCO

2021年4月2日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 変更申請内容

- 瓦礫類一時保管エリアQの解除
 - 1-4号機周辺防護区域の設定に伴い、瓦礫類一時保管エリアQが車両駐車場として利用されるため、その解除を行う。

- 使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nから瓦礫類一時保管エリアd,e,m,nへの変更
 - 現在、使用済保護衣等の焼却が進み、使用済保護衣等一時保管エリアの保管容量には余裕がある。一方で2022年度に瓦礫類一時保管エリアの保管容量が逼迫するおそれがあることから、保管容量に余裕を持たせるため、使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nを瓦礫類一時保管エリアへ変更する。

- 管理対象区域図の変更
 - 上記変更に伴う管理対象区域図の変更

- 敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量の反映
 - 上記変更に伴う線量評価の反映

- 記載の適正化
 - 「固体~~廃~~棄物貯蔵庫・・・」の記載を「固体廃棄物貯蔵庫・・・」へ記載の修正

2. 一時保管エリアの新設・解除・変更について

- 新設

- なし

- 解除

- 瓦礫類一時保管エリアQ

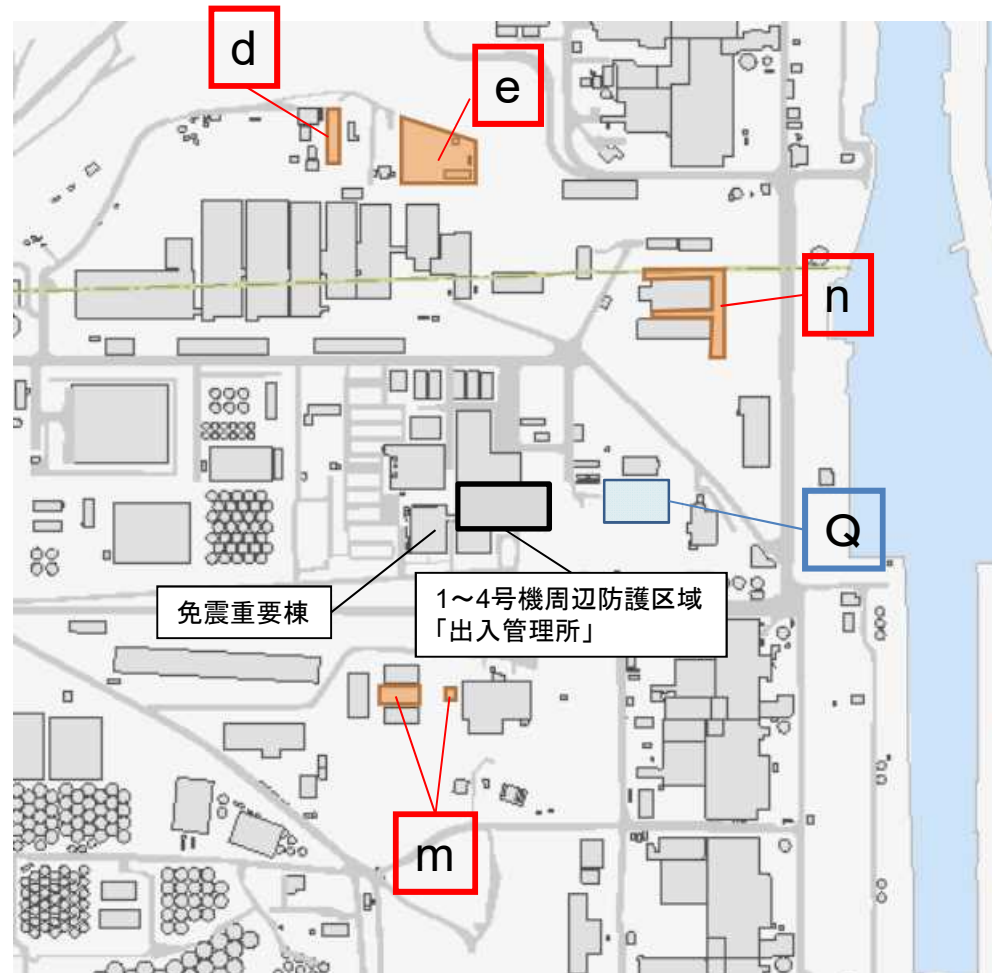
(受入目安表面線量率：5mSv/h,保管容量：6,100m³)

- 変更

- 使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nから
瓦礫類一時保管エリアd,e,m,nへ変更

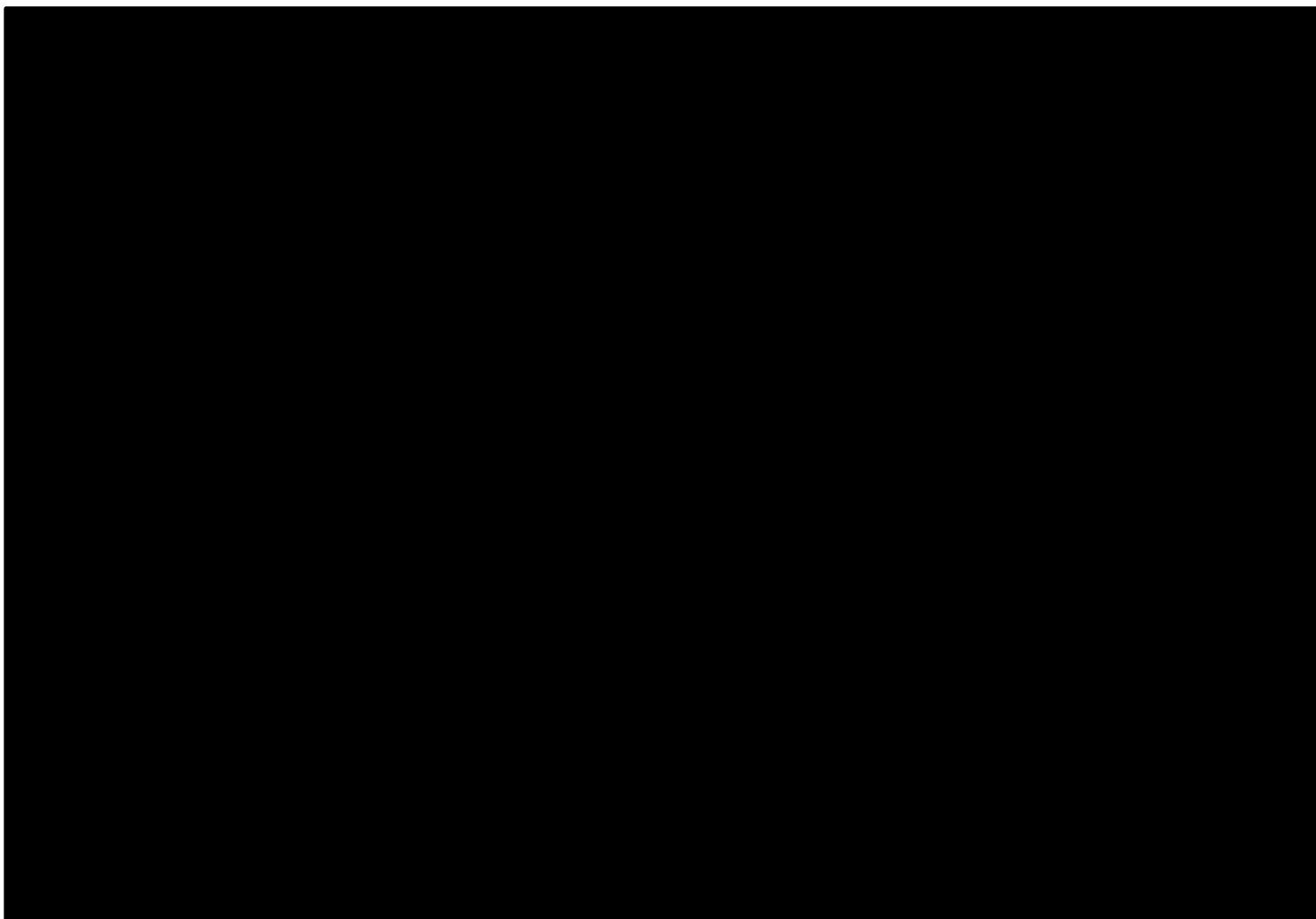
3. 解除及び変更を行うエリア

解除を行う瓦礫類一時保管エリアQ
変更を行う使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nは以下のとおり



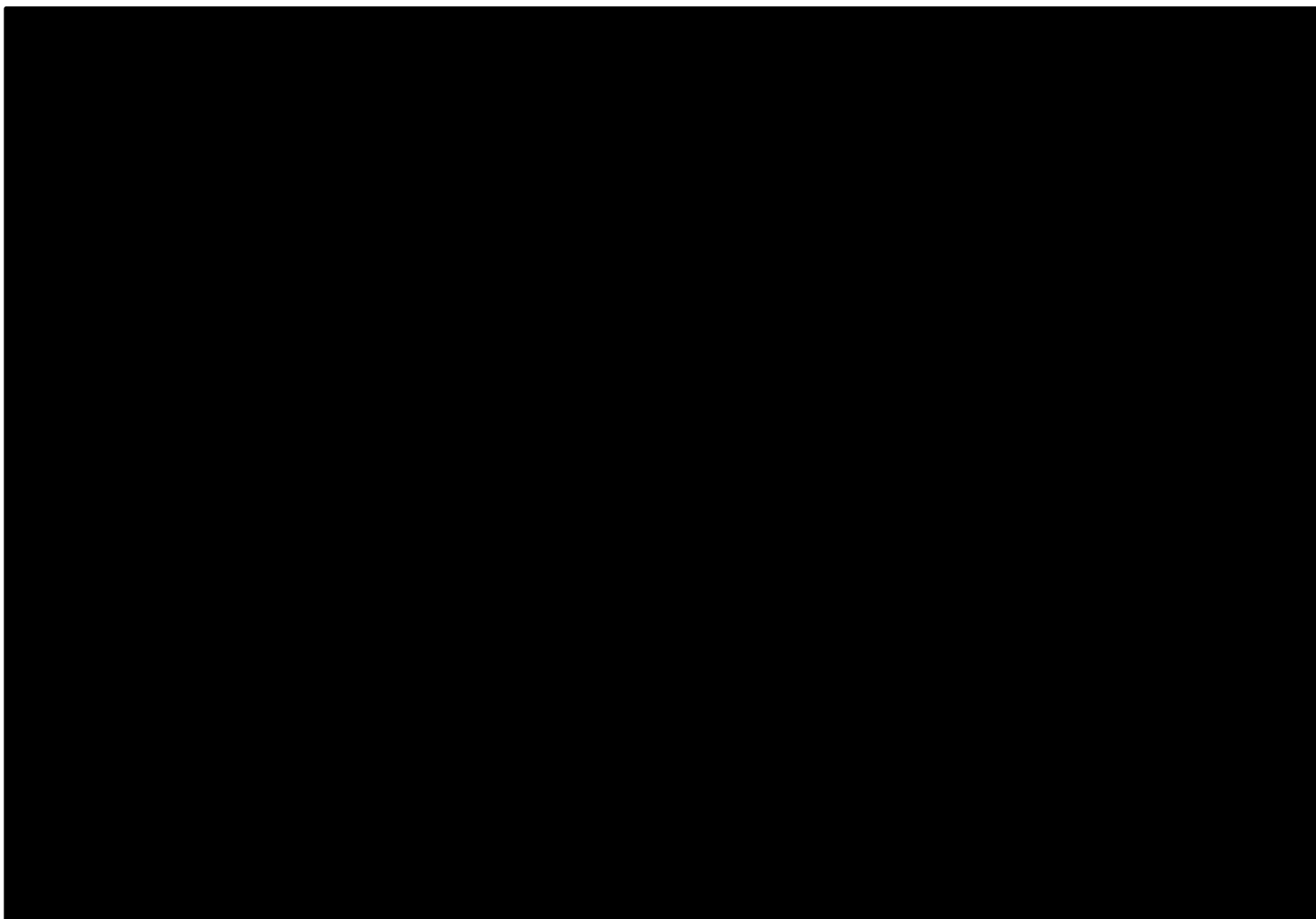
4. 管理対象区域図の変更

変更後



4. 管理対象区域図の変更

変更後



5. 敷地線量評価について

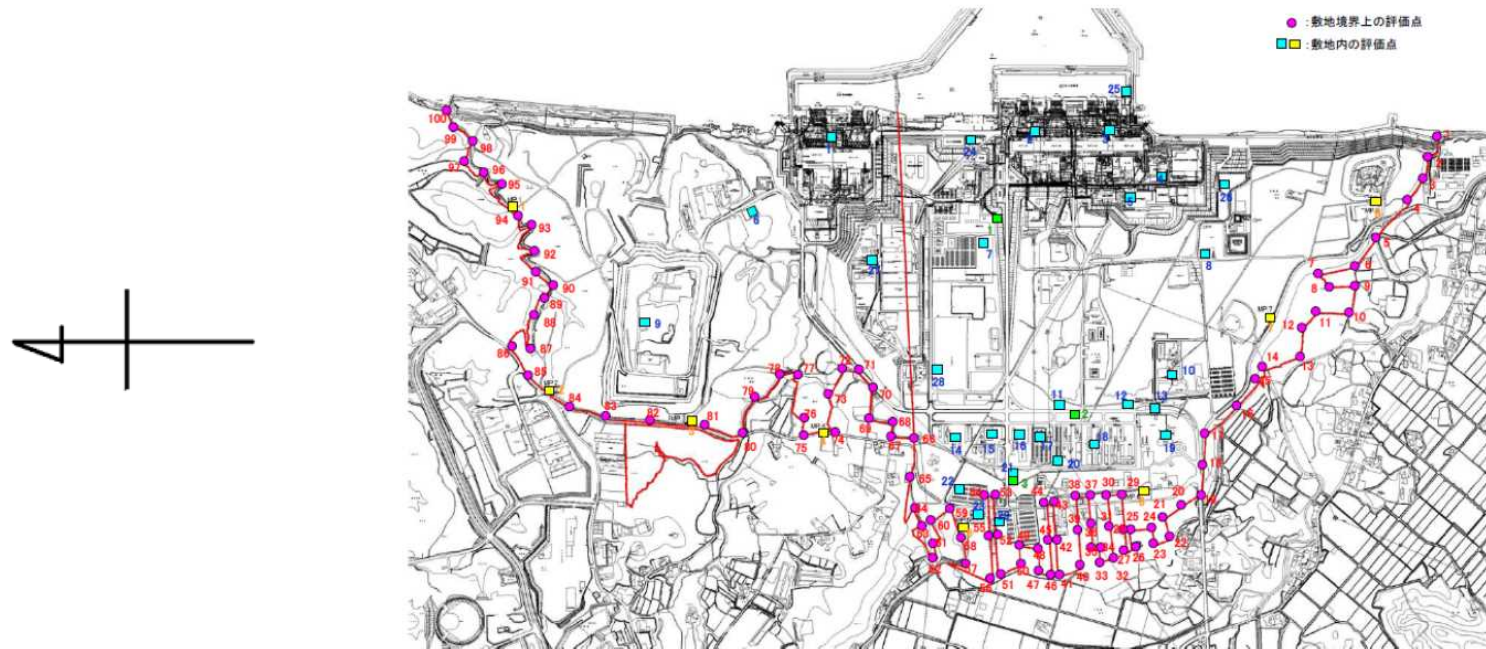
- 瓦礫類一時保管エリアQの解除及び使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nから瓦礫類一時保管エリアd,e,m,nへの変更を実施した際の敷地境界線量評価を、MCNPを用いて実施した。
- 評価条件

一時保管エリア	保管容量(m ³)	受入目安表面線量率(mSv/h)
d	1,170	0.1
e	6,660	0.1
m	3,060	1
n	3,330	1

- 評価結果（評価点No.71）

一時保管エリア	敷地境界最大線量率(mSv/y)
d	2.13×10^{-2}
e	1.99×10^{-2}
m	4.12×10^{-3}
n	4.63×10^{-3}

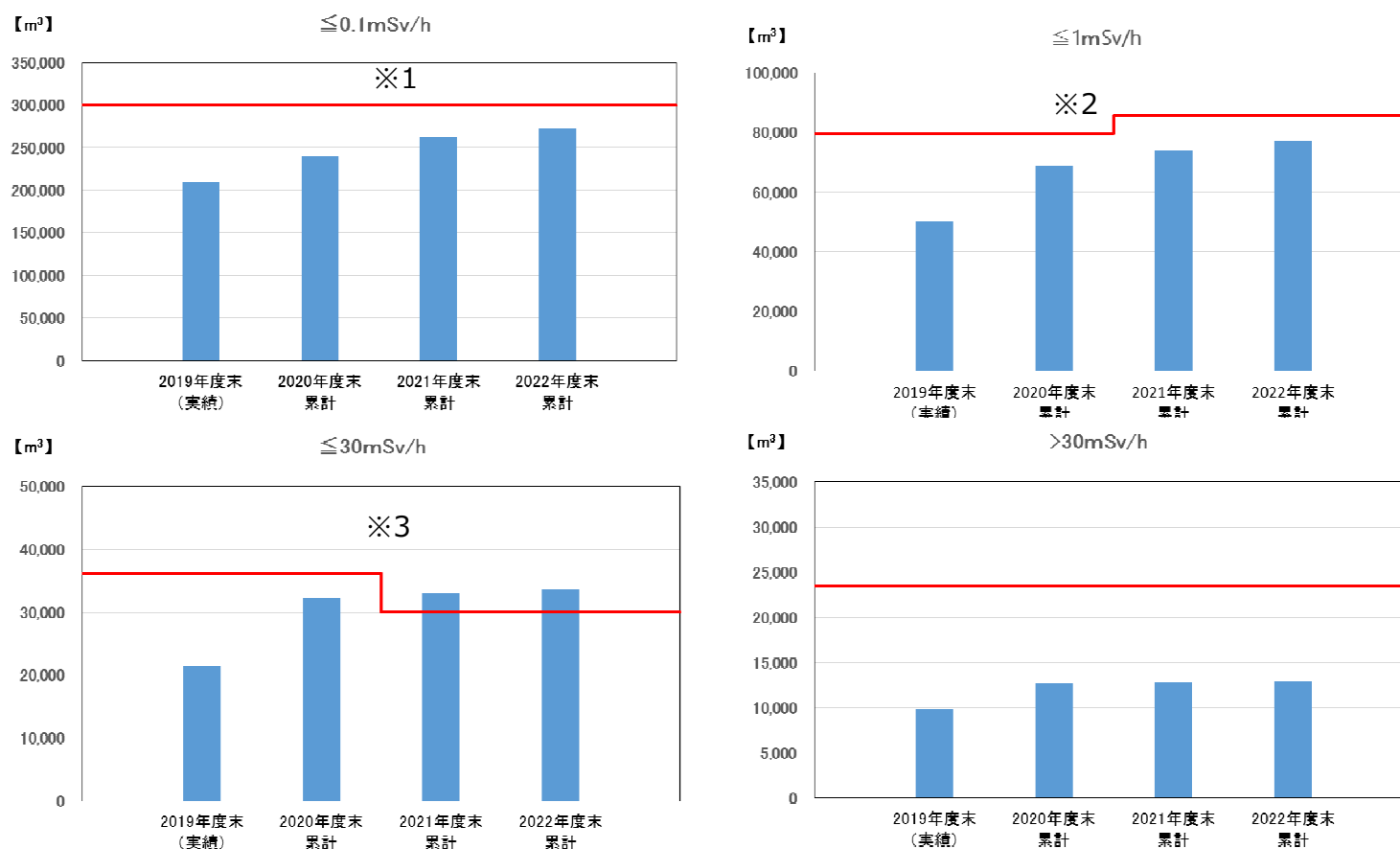
5. 敷地線量評価について



敷地境界評価点（南より北へBP01からBP100）

瓦礫類一時保管エリアQの解除,
及び使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nの変更に伴い,
敷地境界線量の最大値はNo.71:現在 **0.59mSv/年** → 変更後 **0.58mSv/年**

6. 瓦礫類の想定保管量と保管容量の比較について（線量区分毎）



※1 固体廃棄物貯蔵庫第9棟の一部に放射性固体廃棄物を保管することによる減少及び使用済保護衣等一時保管エリアd,eを瓦礫類一時保管エリアd,eへ変更することによる増加

※2 使用済保護衣等一時保管エリアm,nを瓦礫類一時保管エリアm,nへ変更することによる増加

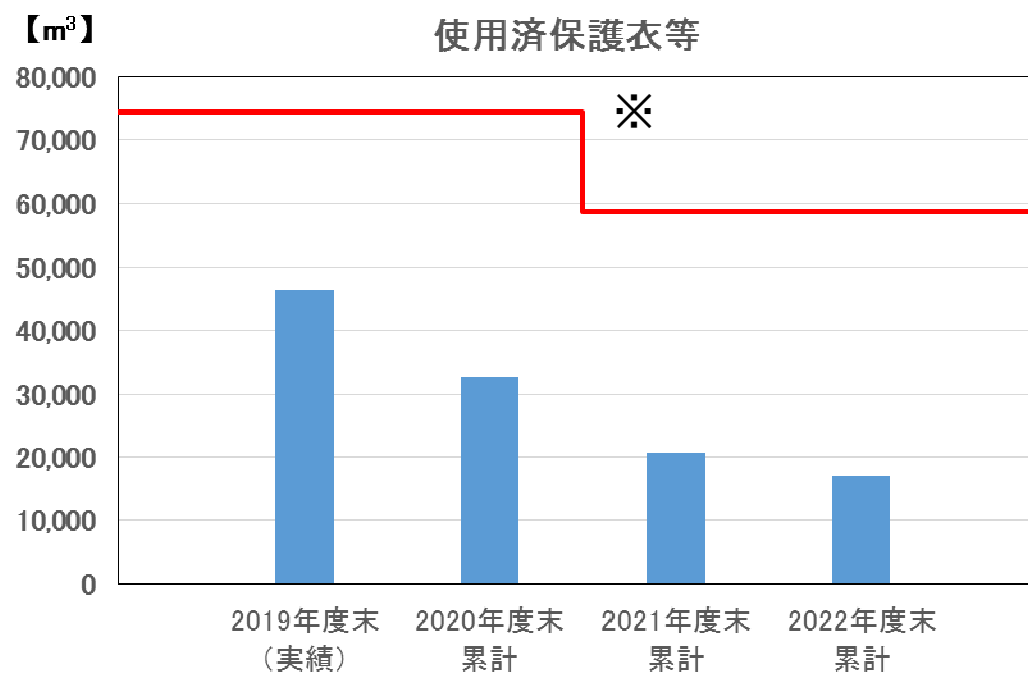
※3 2020年度末に一時保管エリアQを解除。超過分は上位の線量区分へ移動させることで、保管容量の超過を回避

※ 固体廃棄物貯蔵庫第9棟の保管容量は容器収納での保管を前提に、8,400m³/階で想定

図1 瓦礫類の線量区分毎の想定保管量と保管容量の比較.

7. 使用済保護衣等の想定発生量と保管容量の比較

- 以下のとおり、使用済保護衣等の想定保管量に対して保管容量は満足している。



※ 使用済保護衣等一時保管エリアd,e,m,nを瓦礫類一時保管エリアd,e,m,nへ変更することによる減少

図2 使用済保護衣等の想定保管量と保管容量の比較.